

# 資本市場

## INFORMATION

### 監査法人等に係る「令和4年版モニタリングレポート」の公表

公認会計士・監査審査会事務局 審査検査課長 八木原 栄二

公認会計士・監査審査会（以下「審査会」という。）は、監査品質の向上と監査の信頼性確保の観点から、監査法人等に対する審査及び検査等（モニタリング）を実施しており、監査事務所の状況等について、できるだけ分かりやすい形で情報提供するとの観点から、年次で「モニタリングレポート」を公表している。令和4年版（7月15日公表）では、監査事務所や被監査会社の概況に関するデータのほか、審査会のモニタリング活動を通じて入手した最新の情報を記載している。

#### 「令和4年版モニタリングレポート」のポイント

##### 「Ⅰ. 監査業界の概観」

公認会計士、監査事務所、被監査会社などの現況を記載し、監査業界の全体像を俯瞰している。いわゆる4大監査法人への監査業務の集中（上場国内会社の約6割、時価総額ベースで約9割の監査を占める等）や、公認会計士試験関係、金融機関監査、IPO監査の状況等について記載している。

##### 「Ⅱ. 審査会によるモニタリング」

昨事務年度における審査会のモニタリングの状況（制度の概要、審査、報告徴収及び検査の状況）のほか、直近6事務年度の検査における大手・準大手監査法人と中小規模監査事務所の総合評価（5段階）の状況などを記載している。また、審査会第7期（令和4年4月～令和7年3月）監査事務所等モニタリング基本方針及び令和4事務年度監査事務所等モニタリング基本計画の概要につ

いて記載している。

##### 「Ⅲ. 監査事務所の運営状況」

会計監査人の異動状況を含め、モニタリングを通じて把握した監査事務所の運営状況等を記載している。会計監査人の異動件数は、合併による異動の影響を除いて過去5年間で最多であり、監査事務所の規模別では、大手監査法人から準大手監査法人や中小規模監査事務所への異動の傾向が続いている。また監査人の異動理由は、「任期満了」として実質的な理由が記載されていないケースが多かったが、令和4年6月期においては、監査報酬の増額提示や継続監査期間の長期化等を異動理由に挙げているケースや、会社の事業規模に適した監査対応と監査費用の相当性を他の監査法人と比較検討した結果、監査人の異動に至った旨を記載しているケースが増えている。

##### 「Ⅳ. 監査をめぐる環境変化への対応」

近時の監査をめぐる環境変化を踏まえ、監査におけるITの活用とサイバーセキュリティに関する取組状況や監査上の主要な検討事項（KAM）への対応状況、会計監査に関する基準等の最近の動向などのほか、KAMの報告に係る監査法人の体制の一例について記載している。

審査会としては、監査品質向上のため、幅広い層の方々に対して会計監査への関心や意識を高めていくことが重要であると考えており、本レポートがその一助になれば幸いである。

本モニタリングレポートの全文は、審査会ウェブサイトから参照することができる。